

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館開設150周年プレ記念企画  
大阪市・ハンブルク市友好都市提携35周年プレ記念企画協会創立  
60周年  
事業日本テレマン協会  
第300回定期演奏会  
テレマンの街ハンブルクから  
中之島をウィーンに！J.S. バッハ  
マタイ受難曲  
メンデルスゾーン1829年版

J.S. バッハが現在有名なのはメンデルスゾーンが1829年にベルリンでマタイ受難曲を蘇演したことがきっかけと言われています。メンデルスゾーンが実際に演奏に使用した楽譜がオックスフォードの図書館に実在しており、そのコピーを取り寄せて当時のマタイ受難曲の再現演奏を実施します。

Telemann Institute Japan 60th Anniversary



J.S.Bach / F.Mendelssohn: Matthäus-Passion BWV 244

## PROGRAM

J.S. バッハ：マタイ受難曲（メンデルスゾーン1829年版）（詳細は裏面に記載）

## PERFORMANCE

指揮：延原武春 イエス：篠部信宏 エヴァンゲリスト：新井俊稀

合唱：テレマン室内合唱団 管弦楽：テレマン室内オーケストラ Classic ※クラシカル楽器使用

2023 **10.15** Sun. **18:00** ※開演時間にご注意下さい **OPEN at 17:00** 大阪市中央公会堂  
3階中集会室

料金：【自由席】入場無料※要予約/定員に達し次第申込終了となります。

主催：日本テレマン協会 共催：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 / 大阪市

お問合せ：日本テレマン協会

TEL 06-6345-1046 FAX 06-6345-1045

バッハが現在有名なのはメンデルスゾーンが1829年(ベルリン)と1841年(ライプツィヒ)にマタイ受難曲を蘇演したことがきっかけとされています。メンデルスゾーンが実際に演奏に使用した楽譜がオックスフォードに実在しており、そのコピーを取り寄せて当時のマタイ受難曲の再現演奏を実施します。1841年版の再現演奏は既に他の演奏団体により実施されていますが、今回実施予定の1829年版は本邦初演となります。

また、メンデルスゾーンの出身地であるハンブルクは大阪市と友好都市提携を結んでいます。来年の大阪市とハンブルク市の友好都市提携35周年を盛大に祝うため、周年前年に当たる2023年に歴史的にも名高いバッハ「マタイ受難曲」の蘇演を再現する演奏会を開催することで、大阪市とハンブルク市の交流を深めるとともに、大阪市の民間国際交流の促進に寄与することもこの公演の目的の一つとなっています。

指揮：

## 延原武春

NOBUHARA Takeharu



1963年テレマン・アンサンブルを結成。以来60年の歳月を経てその業績は目覚ましく、日本におけるバロック音楽の探究と普及という専門的領域のみならず、その広い視野と行動力によって、特に西日本の音楽文化の広範な普及に多大な貢献をもたらした。近年では長年の古楽探究を礎とした音楽解釈とその熟練された手腕を持つ巨匠指揮者としての今後が多いに嘱望されている。指揮者としてライプツィヒ放送交響楽団やゲヴァントハウス・バッハ・オーケストラなどをはじめとする海外のオーケストラとの共演の機会が幾度もあったにも関わらず、その主眼はあくまでも自らが創設した日本テレマン協会での活動に注がれた。1970年代後半からその評価は関西を超えて全国的なものとなり、テレマン室内オーケストラ・テレマン室内合唱団との演奏は文化庁芸術祭・優秀賞やサントリー音楽賞を受賞するまでに高く評価されることとなる。延原武春の音楽的業績のうち殊にユニークなのが1982年にベートーヴェンの第九交響曲を初演当時の編成と作曲者指定のテンポに従って演奏すること。これはその当時としては極めて斬新なアプローチであったため、ガーディナーやホグウッドといった古楽演奏家達が延原の第九の録音を所望したというエピソードは大変興味深い。延原のベートーヴェンに対するアプローチはこれに留まるものではなく、2008年にはクラシカル楽器によるベートーヴェン：交響曲全曲・合唱幻想曲・ミサ・ソレムニス・ツィクルスを挙げる。これが契機となり延原は『ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小授章』を授賞することとなった。延原の活動の中心には常に日本テレマン協会が存在してきたことは言うまでもないことだが、その合間には海外楽団からの招聘や、岩城宏之音楽監督時代のオーケストラ・アンサンブル金沢や九州交響楽団などからバロックから古典のレパートリーのスペシャリストとして招かれることもあった。かつて、アーノクホルやガーディナーといった古楽のスペシャリストたちがヨーロッパのモダン・オーケストラから指揮者として招かれるようになったのと似通ったムーブメントが今、延原武春のもとにも起ころうとしている。

## テレマン室内合唱団

Telemann Chamber Chorus

1969年に延原武春が創設した合唱団。主にテレマン室内オーケストラとともに演奏活動を続けており、1985年には「J.S. バッハ生誕300年記念国際音楽祭」に、日本から唯一招待され参加し現地新聞等やその外電も含め当時大きな評判となる。ホームグラウンドとも言うべきカトリック夙川教会に於ける「教会音楽シリーズ」は、公演回数も190回を超え、最も大きな活躍の場となっている。これまでに、ヘンデルの10種類の違ったバージョンを年一回のサイクルで連続的に公演した「メサイア10年連続公演シリーズ」、「ヘンデル本邦初演オラトリオシリーズ」、幻のテレマン作受難曲集の公演「テレマンプロジェクト」、また「延原武春の受難曲シリーズ」を開催するなど、数多くの挑戦的な試みに取り組み、多くの注目と称賛の声を集めている。

特に、大阪のザ・シンフォニーホールにて1983年にスタートした「100人の第九」と題された公演にはテレマン室内オーケストラと共に出演し、現在でも連続的に継続しており、人気シリーズとして関西のクラシック音楽の名物公演になっている。

## テレマン室内オーケストラClassic

Telemann Chamber Orchestra Classic

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。主な受賞歴は、「大阪文化祭賞」、「音楽クリエイティブクラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、「文化庁芸術祭優秀賞」（関西初）、「サントリー音楽賞」（関西初）等。1990年バロック・ヴァイオリンのサイモン・スタンディジをミュージック・アドバイザーとし、バロック楽器（18世紀当時の楽器およびそのレプリカ）による演奏を始める。2003年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハフェスティバル in ライプツィヒ2003」に出演し、C.P.E. バッハ「チェンバロ協奏曲Wq.1」を世界初演した。2006年からはクラシカル楽器（古典派の時代に使用された楽器およびそのレプリカ）による演奏を始め、2007年には同楽器によるF.J. ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。2008年にはクラシカル楽器による「ベートーヴェン交響曲全曲&荘厳ミサ曲」を連続公演。これがきっかけとなり延原はドイツ連邦共和国より功労勲章を受章した。2009年よりテレマン室内管弦楽団をあらため「テレマン室内オーケストラ」と改称。2012年にはドイツよりバロック・ヴァイオリンのU. ブンディースを首席客演コンサートマスターとして迎えた。